

震災後の市民による主体的な ふるさとづくりを加速させるために

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク（やっぺす）



代表理事
兼子 佳恵さん
かねこ よしえ

“やっぺす”こと石巻復興支援ネットワークの母体は、代表理事の兼子さんが2000年に仲間とともに立ち上げた子育て支援の市民団体です。震災後、県外からの石巻地域へ支援したいという声を地域へ届ける中間支援の役割が求められ、外部からのボランティアを地域につなぐサポート役をしていましたが、2011年5月、外部に頼るだけではなく地元の人たちが中心になってこれからの復興支援を進めていきたいという思いから新たに団体を立ち上げ、活動を開始しました。現在は、「女性の活躍推進」「仮設住宅・復興公営住宅におけるコミュニティ形成支援」「復興の担い手育成」「復興コーディネート事業」を4本柱に活動しています。

震災後、求められた役割と機能

団体別名の「やっぺす」という言葉は、石巻では「一緒にやりましょう」という意味があり、被災者として同じ目線で寄り添って活動をしようという思いが込められています。

震災後、いち早く始めたのは仮設住宅にこもりがちな方々への仲間づくりのサポートです。その後は、2012年3月には、外で働くことが難しいママがおうち仕事として自宅で製作できるハンドメイドアクセサリーブランドを企業の協力で立ち上げ、4月には内閣府地域社会雇用創造事業として、被災地の課題解決に挑む人材を育成・サポートするため、関西のNPO法人と協働し、女性や若者を対象にした社会起業家を支援する「やっぺす！起業支援ファンド」とインターンシップ「やっぺす！人材育成スクール」を実施しました。

一方、この頃から次第に地域外の企業による支援活動のコーディネートの依頼がたくさん舞い込むようになりました。手作りのホームページで活動の紹介を始

めたことや、現地での様々な活動にメディアが取材に来るなど、広く外部に伝わる機会が増えた時期です。また、石巻市内の子どもたちがボランティアの人たちに配るミサンガを作るプロジェクトのサポートもしており、そうした活動が世の中に広まるタイミングとも重なったようです。まさに来る球を打ち続ける状態が続いたと兼子さんは言います。

寄付をきっかけに企業との協働に

そんな中、2013年に日本ロレアル株式会社の有する化粧品ブランドランコムからの寄付を受けることになり、「石巻の復興に向けて女性の社会参画を推進し、まちづくりに女性の声を反映させていくことで、より魅力的な地域づくりにつなげることを」を目的に、女性の自立・起業支援プログラム「Eyes for Future by ランコム」をランコムと石巻市との協働により開講することになりました。

2013年度は25名が卒業、第2期は起業サポートコースを新たに開設し、33名が卒業。第3期はより起業



▲ランコムスクールの様子

に特化した形でプログラムを組み地域のオピニオンリーダーを育成することを目指し、22名が卒業しました。そして、第4期からは新規参加者24名に加え、卒業生向けのフォローアップを行い、新たなビジネスを立ち上げる卒業生も生まれました。

そうした事例を踏まえ、第5期である2017年はよりビジネス色を強く、グロービス経営大学院などの協力も得ながら創業や地域のリーダー育成に向けた構成とし、参加した26名は様々なディスカッションを重ねながら地域課題を解決していくためのスキルを磨き、様々な展開を見せています。

こうした継続の背景には、日本ロレアル株式会社からの寄付に加え、プログラムに必要な専門性の連携や2期目から受講料を有償化するなど、継続を視野にいたした事業にしていくとともに参加者自身が主体的に学ぶ意識を持てるような工夫があるのです。

2018年3月にはよいよ第6期がスタートします。

「まちづくりは、ひとづくり」

「復興の担い手育成」として取り組んでいるのが「石巻に恋しちゃったプロジェクト（石恋）」です。石巻・女川・東松島で趣味や特技を持つ市民講師を発掘し「達人」として講師になっていただき、ものづくり講座やフィールドワークなどの体験プログラムを行うまちづくりプロジェクトです。2013年に経済産業省「東日本大震災ソーシャルビジネスノウハウ移転・支援事業」の一環として、岡山県総社市で実施している「みちくさ小道」のノウハウ移転を受け開始したものです。

初年度は年に3回数日間の期間を定め、様々なテーマの講座やイベントに地域内外の人々が自由に参加できるプログラムを実施しました。そうした「達人」を紹介するガイドブックを発行することで互いの顔が見える関係性が生まれ、独自のイベントの開催や地域のサークルが出来あがるなど、新たなつながりと輪が生まれました。そして翌年以降、民間の助成金や公的な補助金で資金を補いながら場づくりを続け、これまでプログラムを開催した「達人」は230名にもなりました。回を重ねるごとに仲間の輪が広がり、そうした輪



▲株式会社IBMによるPMコンサルの様子

が主体となり次の仕掛けが生み出されていく、その循環を下支えする役割を果たしながら次の展開を模索し続けています。

プロボノによるマネジメント力強化

2016年より、日本IBM株式会社より組織基盤強化のサポートを受けています。数多くのプロジェクトを抱える中で、マネジメント力の必要性を感じていたところ、首都圏のNPOの紹介で、仙台で開催された勉強会に参加したことがきっかけでした。

団体立ち上げ以降、地域内外からの声に応じる形で事業を作り続けてきましたが、「今後の事業展開や継続に向けた最適化をし、地域に必要な取り組みは残せるものに変えていくといったマネジメントスキルが求められる」と兼子さんは感じていたと言います。日本IBM株式会社の若手有志4名のプロボノからプロジェクトマネジメント手法のレクチャーを伴走形式で受け、2年目である2017年は必要に応じて相談ができる関係性を持つことができました。

「震災によりたくさんものを失ってしまったけれども、支援されればなしは誰もが嫌。自分たちでできることは削がないでほしい。そうでないと対等な気持ちになれないから。」と兼子さんは言います。ちょっとしたチャンスやきっかけがあれば誰もが活躍できる主人公になることができる、そのチャンスが生まれる場づくりが必要で、そうした人と人との交流が次のエネルギーを生み出し、市民による主体的な復興を加速させる、そう信じて「やっぺす（一緒にやろう）」は活動を続けていきます。

特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク（やっぺす）

<問合せ先>
〒986-0811 宮城県石巻市元倉1丁目18-20
TEL▶0225-23-8588 FAX▶022-774-1469
E-mail▶info@yappesu.jp
URL▶http://yappesu.jp